

T T C 提案山行実施記録

2013年9月25日報告者：門間 桂子

山行名	中央アルプス 空木岳～木曾駒ヶ岳	2,864m/2,958m 長野県
実施日	2013年9月21日(土)～9月23日(月) 2泊3日/無人小屋泊/マイカー利用	
天候/参加人員	天候：晴れ レベル：★★★	参加人員：4名 (男3名/女1人)
パーティスタッフ&メンバー	CL/計画：、SL 会計： 救護： 氏名削除	
費用	(内訳)	
一人当たり	食材¥10,188、避難小屋代¥4,000 (@¥1,000)、ロープウェイ代¥4,720 (@¥1,180)、バス代¥3,200 (@¥800) ガスボンベ¥1,058 (@¥529)、タクシー代¥3,000 (菅の台B T→林道終点)、お風呂代¥4,000 (@¥1,000)、高速代¥4,000 (行：¥2,100/帰：1,900円)、燃料代¥8,062、車使用料¥4,300、運転謝礼¥10,000、カンパ金¥172 (@¥43) 合計¥56,700 (一人当たり ¥14,175)	
14,175 円		

実行コースタイム記録

◆9/21(土) (行動時間 6:35)

9/21	3:00	4:14	6:18	7:20	9:45	10:00	11:00
厚木出発	==	相模湖 I C	==	駒ヶ根 I C	==	林道終点	——
	1:14	2:04	1:02	2:25	0:25	1:00	
	11:34	13:55					
——	迷い尾根	——	空木平避難小屋(泊)				
0:34	2:21						

◆9/22(日) (行動時間 9:20)

9/22	4:45	6:10	6:34	8:10	9:15	11:22
空木平避難小屋	——	空木駒峰ヒュッテ	——	空木岳	——	木曾殿山荘
	1:25	0:24	1:36	1:05	2:07	
	13:41	14:05				
——	桧尾岳	——	檜尾避難小屋(泊)			
2:19	0:24					

◆9/23(月) (行動時間 8:45)

9/23	4:15	7:15	10:35	11:05	11:40	13:00
檜尾避難小屋	——	ニゴリ沢大峰	——	宝剣岳	——	宝剣山荘
	2:45	3:20	0:30	0:35	1:20	
	13:50	14:45	16:20	20:00		
==	菅の台 B S	==	こまくさの湯	==	駒ヶ根 I C	=
0:50	0:55 (マイカー回収)	1:35	3:40			

コースの概要、特記事項、反省事項等

自宅を 3:00 に出発、Sさん、Kさんをピックアップし中央道駒ヶ根インターを目指す。高速道路は目立った渋滞もなく、6:18に駒ヶ根インターで降り、車乗り入れ最終目的地の古城公園先に到着。すでに車はほぼいっぱいであったがどうかスペースをみつけ駐車する。ウォーミングアップを終え、さて登るかと思っていると後から一台の車が止まり、この上まで入れるよ、とのこと。さっそく、降ろしたザックを車に積みさらに奥に進んだ。このアルバイトはかなり価値がある。2～3年前までは補強工事のため一時通行止めが続いていたらしいが10月の連休が終わるころまではゲートが開いているらしい。しかし、その駐車場につくとすでに30台位の満車状態であり、やや下ったカーブ沿いに止めることにした。

7:20発。いよいよ池山尾根に取りつく。過去につらい思いをして登った記憶があり、構えてしまう。まずは池山小屋を目指すが見えどでもない、時期の差であろうか。ほどなく歩くと二股に分かれ、急峻コースと遊歩道コースがあるが今回は遊歩道コースを選んだ。途中、水場という看板に惑わされ旧池山小屋にたどり着いてしまうことはあったがまずまずの登りが続く。マゼナギを越えたあと、鎖や階段を使う大地獄、小地獄が出てくる。慎重に登り特に危険な箇所はみられなかった。この間に降りてくる人、追い越される人で山は混雑が予想された。本日の泊りをどうするか、できれば「駒峰ヒュッテ」に泊まりたいと

ころであるがすれ違う人に情報を聞くと、かなり混んでいる様子。「空木避難小屋」にするのかどうするのか決断しなければならぬ分岐が来た。リーダーの判断で避難小屋に決まる小屋は分岐から 15 分ほど下った所に建っており、季節によってはチングルマなどのお花畑がきれいだとのことであるが今の時期は終わった名残があるのみであった。

小屋代金は一人 1,000 円。水は小屋から 5 分ほど上流に行くと沢水がある。我々が着いたときはテントが一張りと中に一人いたが、結局我々を含め 10 名位でありスペース的にはゆったりであった。早めの夕食をすませ、6 時には就寝した。しかし、「睡眠時無呼吸症候群」なのでは、といういびきをかく人がいて快適な夜とはいかなかった。

翌日は 3 時半起床、ラーメンで朝をすませ 4 時 45 分に出発、「駒峰ヒュッテ」を目指す。本日のテント場には水がないため、共同の水を 3.5L 調達する。甲斐駒を背後にみながらの登りである、途中、甲斐駒の右手からすばらしい日の出がみえた。「駒峰ヒュッテ」は 20 年位前からするとすっかりきれいになっていた。昨夜は予想通りかなりの混みようであり、一階の土間にまで泊り客であふれていたようだ。トイレをすませ、目の前の空木岳にはヒュッテから 25 分ほどで到着した。

6:35 空木岳に到着。木曾殿まで岩稜帯の長い下りをひたすら降りる。木曾殿山荘も一枚の布団に二人寝するという混みようであったらしい。朝早くから主人が掃除をしていた。トイレを借りようとしたら 200 円とのこと、お金を払うと主人がカギをあけてくれ、ようやく使えるという嚴重さであった。

木曾殿から檜尾岳まではかなり長かった。天気もよく、湿度も高かったためか夏山を歩いているような暑さである。目的地までの稜線がずーとみえているが歩いても歩いても近づかない、はるかかなたにみえる。途中で島田娘から千畳敷カールに降りようかと変更するがそれも無理な時間である。寝るぶんにはテント場があれば大丈夫なのであるが予想以上に水を飲んでしまい、手持ちの水が 2.5L 位しかない。この先のことを考えると水が心配だ。檜尾避難小屋に泊まると一番良いのであるがなにしろ地図によると水場がない。檜尾岳で考えあぐねていた、だめもとで隣の男の人に避難小屋は水ないですよ、と質問すると、今年は枯れていないということですよ、との夢のような一言。いやー助かった。迷うことなく避難小屋に泊まることにする。水場は小屋から 15 分ほど下ったところにチョロチョロと流れていた。沢水のため冷たい一ありがた水であった。地図上だけでの情報収集と水の必要量の計算違いが大きな反省点である。しかし、反対に枯れているときもあるらしいのでくれぐれもご注意を。とりあえず、小屋に泊まることにする。以外に後から来る人が多く、小屋はぎゅうぎゅうまではいかない程度の混み具合であった。テント泊者も 4 張ほどいた。

3 時起床、本日もラーメンですませ 4 時 15 分に出発する。檜尾岳にもどり宝剣を目指す。15 分位歩いていると、あれ、なんか変じゃないという道に入る。沢の藪漕ぎみたいだ。これはあきらかに一般道ではない、ヘッドランプのなかだったためか、山頂からの左に行く道を見落としたようだ。明るいとそうでもないのかもしれないが少し迷うところである。韓国の遭難した人達もこの沢沿いに迷い込んだのではないかと想像した。

7:15 濁沢大峰と思える個所があったが標識の文字は消えており定かではない。しかし、この間の宝剣までの道は実に気持ちの良い、素晴らしいところであった。

宝剣岳の手前にかかると、監視員の人が無線機を持って待っており、素人の監視をしているようだ。ここからの登りはかなり上級クラスで滑落事故も多い、無理なら島田娘から降りるようにとのこと。リーダーの大丈夫ですとの力強い言葉のもと、身支度と心を引き締め岩にとりつく。鎖もしっかりしているので慎重に登れば大丈夫であるが、両サイドが切れているところやトラバースがあったりと気を抜けない箇所が連続し緊張した。山頂はかなりせまく、3~4 人が占領していたため、手を伸ばせが届く距離を断念して下山した。

木曾駒ヶ岳には一度も行っていない MK と登頂したあと、ロープウェイをめざし、下山した。ロープウェイはかなりの混雑を予想していたがラッキーにも 15 分ほど並んですぐに乗れた。後でタクシーの運転手さん情報によると、昨日は登り、下りともに 2 時間待ち、一年で一番のピークは 10 月 10 日前後の連休とのこと。3 時間、5 時間待ちもあるらしいのでご用心。ちなみに、達人はすでにこの時期に 10 月のタクシー予約しているらしい。

タクシーで駐車場まで入り、車も無事回収し、食事つきで 1,000 円の入浴料を支払い「こまくさの湯」で汗を流した。中央道は大月から大渋滞のため、秋山街道にまわり、20 時頃、厚木に無事帰着した。